

# サマーセミナー 2024 報告

金子 直史† 村松 正吾‡  
† 東京電機大学 ‡ 新潟大学

2024 年度のサマーセミナーは、2023 年度に引き続き対面方式での開催となった。今年度も、学生・若手研究者による活発な議論が行われるような工夫を取り入れた企画を実施した。若葉研究会の発表は 23 件、1 件の特別講演をお願いした。参加者数は企業 4 名、大学教員 8 名、学生 26 名の合計 38 名であった。

## 1 はじめに

第 33 回目となるサマーセミナーは、2024 年 8 月 22 (木)、23 日 (金) の 2 日間、富山県黒部市の「うなづき友学館」にて対面方式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催は今回で 21 回目となる。サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すること、若葉研究者と研究指導者（企業研究者や大学教員）との交流の場を与えること、両学会の研究室学生諸君、研究者同士の交流を図ることである。

## 2 企画趣旨

今回のサマーセミナーのテーマは「ビジョン×ジェネレーション Z」である。研究を始めたばかりの学生や企業の研究者が「発表したい!」「参加したい!」と思うような、デジタルネイティブの若手研究者にアナログ的な対面議論の場を提供する仕組みを準備することとした。そして、発表者が自身の研究に対して多くの質問・コメントを持ち帰ることができ、かつ、他人の発表に対して臆せず意見する「質問力」を鍛えられるようにするため、4 年ぶりの対面開催となった 2023 年度に刷新された形式を引継ぎ、下記の仕組みを導入した。

1. 少数グループでの発表：少人数で研究発表を行うことで自然と議論が行われる空気感を醸成する。さらに、各グループにファシリテータとして専門の委員をつけ、議論の活性化を促進する。
2. 議論に参加すること自体を評価する仕組みを導入：発表者にとって今後の研究活動の参考になるような有益なコメント・質問がなされた場合に、これを評価する仕組みを導入する。具体的には、聴講者は事前に配布されたコメントシートに発表内容について感じたことを記入して発表者に手渡すこととし、発表者は参考になったコメントを行なった参加者に投票することにした。

また、昨年度からの変更点として、少数グループで

の発表の前に全体の前でショートオーラル発表を実施することで、スムーズに議論へ移行できるような工夫を行った。

## 3 運営体制

共催となってからは両組織が交代で主担当となっており、今回はメディア工学研究会側が中心となって開催した。以下に示す企画委員会を設置し、村松委員長のもと、平野幹事、田邊幹事（メディア工学研究会）、金子幹事（画像応用技術専門委員会）が中心となって準備を進めた。構成は以下の通りである（敬称略）。

### 【企画委員会】

#### メディア工学研究会側

- 村松 正吾（新潟大学：企画委員長）
- 平野 晃昭（関東学院大学：幹事）
- 田邊 造（公立諏訪東京理科大学：幹事）
- 東海 彰吾（福井大学）
- 曾我 麻佐子（龍谷大学）
- 青木 義満（慶應義塾大学）
- 村上 和人（愛知県立大学：アドバイザー）

#### 画像応用技術専門委員会側

- 金子 直史（東京電機大学：幹事）
- 佐藤 惇哉（岐阜大学）
- 森野 比佐夫（ファースト）
- 菅野 純一（ヴィスコ・テクノロジーズ）
- 輿水 大和（中京大/YYC ソリューション：アドバイザー）
- 飛谷 謙介（情報科学芸術大学院大学：アドバイザー）
- 秋月 秀一（中京大学：アドバイザー）

### 【優秀発表賞審査委員会】

サマーセミナーでは、若葉研究会での優秀な発表者に賞が贈られる。優秀発表賞については、以下の 5 名で構成される優秀発表賞 審査委員会を設置し、公正かつ平等な審査を行った。

#### 代表会委員

- 村松 正吾（新潟大学：企画委員長）

- 金子 直史（東京電機大学：幹事）

#### 審査委員（五十音順）

- 秋月 秀一（中京大学）
- 平野 晃昭（関東学院大学）
- 村上 和人（愛知県立大学）

## 4 実施報告

### 4.1 参加者数、会場

参加者数は企業4名、大学教員8名、学生26名の合計38名であった。全国各地からご参加頂いた関係各位に感謝申し上げます。セミナーは富山県黒部市のうなづき友学館で行われ、自然豊かな地で熱い議論が交わされた。

### 4.2 若葉研究会

23件の発表があり、同じく対面開催であった昨年度の20件より増加した。

今回は全体に向けてのショートオーラル発表の後、少人数でのポスター発表（質疑応答）に移行する形式とした。1セッションあたり4～5名が発表し、ショートオーラルは3分/件で発表し、ポスター発表は12分おきに聴講者が交代した。学生聴講者は「コメントシート」に発表への意見・感想を記載し、発表者に手渡した。発表が終わると聴講者からのコメントがまとまったコメントシート集が出来上がる。発表者には文字通り、多くのコメントを持ち帰っていただいた。

ショートオーラル発表では各セッションごとに座長を配置した。また、ポスター発表中は議論の盛り上げ役として全ての発表にベテラン研究者をファシリテータとして割り当てた。座長およびファシリテータは、村松 正吾氏（新潟大学）、平野 晃昭氏（関東学院大学）、秋月 秀一氏（中京大学）、金子 直史氏（東京電機大学）、村上 和人氏（愛知県立大学）、伊藤 康一氏（東北大学）、菅野 純一氏（ヴィスコ・テクノロジーズ）、森野 比佐夫氏（ファースト）、本田 良二郎氏（ヴィスコ・テクノロジーズ）、田邊 造氏（公立諏訪東京理科大学）にご担当いただいた。各位に感謝申し上げます。

### 4.3 特別講演

今回のサマーセミナーでは、黒部市教育委員会生涯学習文化課 ジオパーク推進班長の王生 透氏をお招きし、「愛本刎橋 VRで再現 日本三奇橋全容を体感」と題して興味深いご講演をいただいた。うなづき友学館に併設の黒部市歴史民俗資料館で展示されている愛本刎橋をVRで再現する試みについてご説明いただき、実際の映像も交えながら、巨大な木造橋について体感できる刺激的な内容であった。

### 4.4 優秀発表賞

どの発表もレベルが高く、審査員を大いに悩ませた結果、以下の2名の受賞者が決まった。



図1 発表風景（上）と参加者集合写真（下）

### 優秀発表賞受賞者（発表順）

- 岡本 充生氏（新潟大学）
- 高間 夏暉氏（東北大学）

優秀発表賞のカップは持ち回りで、次のサマーセミナーまで受賞者の研究室に飾られる。研究の励みになることを期待する。なお、コメントへの投票企画に対する一位は同率で齋藤 風都氏（東北大学）、高間 夏暉氏（東北大学）の2名であった。参加者からの拍手をもって、有益なコメントを頂いたことへの感謝の意を表した。

## 5 おわりに

今年度のサマーセミナーは、昨年に引き続き対面形式で行い、活発な議論が交わされた。図1に当日の様子を示す。サマーセミナー2024の開催にあたり、お世話になった皆様に、紙面を借りて感謝の意を表したい。次のサマーセミナーは、画像応用技術専門委員会が中心となって開催する。活発な議論が行われ、「発表したい!」「参加したい!」と思うようなセミナーを目指して、準備を進めていく。